

かつて菅原道真が  
濡れた衣を干したと伝わる衣干岩  
衣干岩と綱敷天満宮は  
桜井と道真の千年の歴史をつなぐ

今治さくらの物語  
綱敷天満宮と衣干岩

桜井沖は潮の流れが速く、ひうち灘の難所として知られている。この地には 1000 年以上前に菅原道真が流れ着いたという伝説が残っている。道真は九州大宰府へ配流される途中桜井沖で風に遭い、命からがら志島の浦に漂着し、濡れた衣を岩の上に干した。この出来事がきっかけでこの岩は「衣干岩」と呼ばれるようになった。桜井の人々は道真一行を新鮮な魚を献上するなどして手厚くもてなした。それに感激した道真は自像を刻んだ船の舵を素波神として祀るように伝え、桜井の人々に渡した。素波神社はかつて日本各地へ漆器を売りに行くのに使われた桹船があった内港に向かって、現在も祀られている。

綱敷天満宮の「綱敷」は道真を迎える際に敷物が無かったため、漁民が漁網を丸めて円座の代わりとしたことに由来するとされる。境内には筆塚や座牛など道真に縁のあるものが多く祀られる。学問の神として名高い道真と関係の深いこの綱敷天満宮には、毎年多くの受験生が参拝に訪れ、道真が描かれた絵馬に願いをこめる。

桜井地区地域水産業再生委員会 × 愛媛大学井口梓研究室

